

テーマ4 まちづくりにおける専門家の役割

まちづくりの専門性と必要となる場面

1. まちづくりの専門性とは

本特別委員会の検討は建築基準法と都市計画法を主対象とすることから、ここで扱うまちづくりの専門領域は、都市や地区の物的環境のあり方（主に建築的土地利用及びアーバンデザイン）の領域とする。

この領域で求められる専門性の内容としては、次の3種類を想定する。

- (1) 科学的合理性：計画に関する意見や判断を科学的・論理的に提示し説明する専門性
- (2) 空間表現能力：計画が実現する状況や計画が及ぼす影響を、空間像として示す専門性
- (3) コミュニケーション：非専門家との間での情報・意見の交換を円滑にする専門性

また、専門性が関与する形としては、以下の2つの立場を考える。

- (a) 直接的関与：主体が自ら行う行為に関して、直接専門的な観点から支援する立場
- (b) 第三者的関与：主体の行為に関して、第三者的に外から客観的に判断・評価する立場

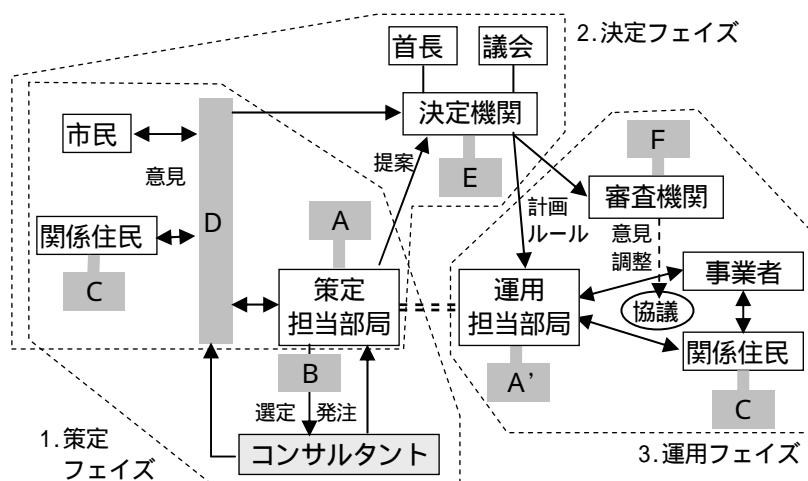
2. 専門性が必要とされる場面

専門家が登場する場面としては、自治体が都市的土地利用管理政策を遂行する過程を想定する。公共事業や再開発事業等の計画・実施の領域は対象外とする。

都市的土地利用管理政策に関わるプロセスを、計画やルールの「1.策定」「2.決定」「3.運用」という3つのフェイズで捉える。それぞれの概要は以下に示す通りである。

- 1.策定フェイズ：行政の担当部局が市民や関係住民の意見を聞き、必要に応じてコンサルタントの協力も得ながら、案を作成する。
- 2.決定フェイズ：行政の担当部局が決定機関に提案し、市民や関係住民の意見を参考としながら、首長・議会・市民代表及び専門家等で議論して決定する。
- 3.運用フェイズ：決定された計画・ルールに基づいて、事業者・関係住民・行政の間で協議を行い、審査機関による意見や調整を受けながら、具体の運用を行う。

各フェイズで関与する主体と、フェイズ内で専門性が必要になると考えられる場面（アルファベットの項目）は、下図のようにまとめられる。



3. 各場面で必要となる専門性

「1. 策定フェイズ」の各場面で必要となる専門性は、以下のように考えられる。

A：行政担当部局の策定支援：

計画の内容に対して専門技術の立場から助言し支援する。プレーンの位置づけ。

必要な専門性...(1)科学的合理性(2)空間表現能力、立場...(a)直接的関与。

B：コンサルタントの選定支援：

発注先候補の能力や業務実績等の評価を客観的な立場から行い、選定に協力する。

必要な専門性...(1)科学的合理性、立場...(b)第三者的関与。

C：関係住民のアドボケイト：

関係住民の意見を技術的な知識・論理を用いて代弁するなどして活動を支援する。

必要な専門性...(1)科学的合理性(2)空間表現能力、立場...(a)直接的関与。

D：意見交換の円滑化：

参加における関係主体の間での意見交換・コミュニケーションを円滑に進める。

必要な専門性...(3)コミュニケーション、立場...(b)第三者的関与。

「2. 決定フェイズ」で必要となる専門性は、以下のように考えられる。

A：行政担当部局の決定支援

計画提案に関する根拠・裏付けの構築を支援し、論理的に説明する。

必要な専門性...(1)科学的合理性、立場...(a)直接的関与。

C：策定フェイズと同様だが、主張をより明確に論理的に示すことが求められる。

D：策定フェイズと同様だが、幅広い民意を集めて的確に把握する役割が求められる。

E：決定に関する専門的判断

決定の妥当性に関して、専門的・客観的判断を示す。準司法的役割。

必要な専門性...(1)科学的合理性、立場...(b)第三者的関与。

「3. 運用フェイズ」で必要となる専門性は、以下のように考えられる。

A'：行政担当部局の運用支援

行政が行う判断や“裁量”を技術的に支援し、その妥当性・根拠を示す。

必要な専門性...(1)科学的合理性(2)空間表現能力、立場...(a)直接的関与。

C：基本的には策定フェイズと同様。

F：調整に関する客観的判断

協議ルールに基づく調整が行われているかを確認し、裁量等の妥当性を判断する。

必要な専門性...(1)科学的合理性、立場...(b)第三者的関与。